

1 収支

平成19年度普通会計決算における実質収支は、25億76百万円の黒字。

実質単年度収支は、地方譲与税の大幅な減少などによる財源不足に対応して財政調整基金を取り崩したことにより、54億24百万円の赤字となった。

昨年と同様、財政力指数は全国46位であった。

経常収支比率については、定数削減や給与カットによる人件費の削減などで歳出を圧縮したものの、税源移譲による地方譲与税の大幅な減少などの影響により一般財源が減少し、前年度を1.5ポイント上回る98.9%となり、決算統計データが電算処理化された昭和44年度以降、最も高くなった。

- * 実質収支 …… 歳入総額から歳出総額を差し引いた収支から、翌年度へ繰り越す必要のある財源を調整したもの。
- * 単年度収支 …… 当該年度の実質収支から前年度の実質収支を差し引いたもの。
- * 実質単年度収支 …… 単年度収支から実質的な黒字要素（県債の繰上償還額や財政調整基金の積立金）を加算し、逆に赤字要素（同基金の取り崩し額）を減額したもの。
- * 経常収支比率 …… 財政構造の弾力性を測定する比率で、経常一般財源の額のうち経常経費に充てられる割合。

2 歳入

歳入は県税、地方特例交付金、繰入金、県債が増加した一方、地方譲与税、地方交付税、国庫支出金、分担金及び負担金、財産収入、繰越金、諸収入などが減少し、4,289億03百万円、対前年比2.4%（105億86百万円）の減。

3 歳出

経常的経費・投資的経費とも圧縮・節減に努めたことなどにより、4,217億89百万円、対前年比2.3%（100億04百万円）の減。

4 その他

一般公共事業債や一般単独事業債などの借入額が減となったことから、県債現在高は前年度末より減少した。

○ 関係指標等	17年度	18年度	19年度
県債現在高（満期一括分除く）	7,941億23百万円	7,889億28百万円	7,876億09百万円
県債現在高（臨財債等除く）	6,528億31百万円	6,292億40百万円	6,130億84百万円

- * 昨年度まで掲載していた実質公債費比率については、新たに「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」が成立、一部施行されたことにより、健全化判断比率として、実質赤字比率、連結実質赤字比率、将来負担比率とともに後日、公表します。